

# 中国を旅して

上海・昆明の教育からの衝撃  
岡山大学名誉教授  
坂田 生



福武教育振興財団の海外教育事情調査のため雲南省昆明に行く途中、十六年ぶりに上海に立ち寄った。前回は東北師範大学と岡山大学の交流協定の調印式の際であったが、その間の変貌に大変驚いた。



昆明市立第一中学校の授業風景

テレビの番組等で、ある程度の変化の様子は知っていたのであるが、まさに予想を越えた変

わり方で、車窓から見える高層ビル群を見ると、上海にいるのかシンガポールあるいは日本にいるのかわからなくなるほどであった。私は日本の経済の停滞を思い、暗澹たる気持ちになったのである。十六年前東北師範大学で、高校生が夜九時頃まで残って勉強すると聞いたが、若い人たちのこの強い意欲がこの変化の原動力なのである。

次は上海から航空機で約三時間のところの昆明と、さらに約一時間のところの西双版纳の二都市の幼、小、中、高、大学の重点学校を訪れた。昆明第一中学校(中高一貫の六年制の学校)の一年生の時間割は英語六時間、数学六時間、国語五時間等であって、我が国との違いに愕然としたのである。この学校の高校二年生と話す機会があり、数学の内容について質問したところ十分理解しており、答えはしっかりと英語で返ってきた。彼らはすでに小学校三年生から一週二時間英語を学習しているのである。来年からは一年生から始めるそうだ。英語は英語で考え中国語に訳すこと



昆明市立明通小学校の子どもたちと海外教育事情調査団員

はしない。また小学校でも教員は専科制である。さらに小学校や幼稚園では子どもたちの下校時には親が学校の門のところに迎えていた。子どもは家庭や国の宝として大切に育てているのである。

このように教育が成功しているのは都市部と沿岸部で、農村地域にまでは浸透していないと言われているが、中国の発展の大きな力になっていくことは確かである。

それにひきかえ我が国は、百米競走でゴールに手をつないで入るといった、とどまることを知らない平準化の状態であり、そこから一刻も早く立ち直ることが求められている。

(福武教育振興財団 理事)

# 不 易

英語教員研修助成を受けて  
瀬戸町立江西小学校  
大口由美子



英語というシャワーを、気持ちよく浴びることできた研修でした。このような素晴らしい機会を与えてくださった福武教育振興財団に、改めて感謝しております。

研修は、ベルリッツランゲージセンターを会場に、十二日間行われました。個人レッスンでは、最初、先生のネイティブな発音が聞き取れず、「……?」「Pardon」の連続でした。質問に答えるどころか、何を問われているのかさえわからないのです。背中に汗が流れるのを感じながらのスタートでした。「自由」に英語でコミュニケーション



講師の先生や仲間とともに

をとりた」と、意気込んで参加した研修でしたが、自分の力のなさを痛感し、こんな調子で本当に力がつくのだろうか、と不安になる日が続きました。そんな研修の中で、グループレッスンは、自分の焦りを和らげてもらえる時間でした。個人レッスンでは、自分の技能を高めることばかりにこだわっていましたが、グループレッスンでは、ゆったりと、お互いの意見を聞き合うことにより、自らも高められることに気づくことができました。

第14号  
平成15年1月15日  
(財)福武教育振興財団  
(財)福武文化振興財団  
〒700-0807  
岡山市南方3-7-17  
TEL.086-221-5254  
FAX.086-232-3190  
http://www.fukutake.or.jp/  
制作 (株)吉備人

また、国際理解学習に取り組んでいる各校との情報交換もできました。この研修で学んだことを自校に戻って生かそうと、意欲満々の皆さんに触発されました。

研修の締めくくりとしてのスピーチ大会では、「講師の先生と研修生の前で一人ずつ英語で」と言われ、最終日がくるのをどきどきして待っていました。当日は福武財団の武先生にも聞いていただき、会場は和やかな雰囲気につつまれました。

研修中のエピソードや学校での取り組み、日本語の方言や遊びなど、内容は多岐にわたり、最後の懇親会とあわせて、お互いの距離がぐっと縮まった楽しい会となりました。

今後も、英語にふれる機会を積極的につくり、自らのコミュニケーション能力を培いたいと思いを新たにすることのできた研修でした。

## 福武文化振興財団 文化関係助成

### 平成十五年度の助成 募集について

福武文化振興財団は、岡山県内の文化活動を助成し、岡山県の文化の発展に寄与することを目的としております。  
対象 岡山県内で文化活動を行っている個人・団体。(ただし、単なる趣味や同好のグループは対象となりません。)

助成額 一件の上限：三十万円  
応募方法 公民館等に配布した所定の申請書(HPからダウンロードすることも可能)に記入し、三月三十一までに財団事務局あてに郵送してください。(詳細は募集要項、当財団のHPを参照。)  
問い合わせ 福武文化振興財団まで

福武文化振興財団  
福武文化振興財団  
HPアドレス  
http://www.fukutake.or.jp/

講演会のご案内  
演 題 「文化を大切に社会をめざして」  
講 師 岡山県副知事 大西珠枝氏  
日 時 平成15年1月25日(土)  
14時～16時  
場 所 ベネッセコーポレーション  
本社大ホール  
参加費 無料  
申込方法 ハガキまたはFAXでお名前(ふりがな)・ご住所・電話番号・参加人数をご記入のうえ、財団事務局までお申し込みください。

## 編集後記

あけましておめでとうございませう。皆様には心改まる思いです。新年をお迎えのこと存じます。今回は教育・文化活動にかかわっている多彩な方々からご寄稿をいただき感謝いたします。私もまだまだ経験不足ですが、本年は更に充実した紙面をお届けできるよう努力いたします。

昨年の秋には、文化発表会と教育研究発表会を行いました。どの発表からも日ごろの活動にかける情熱が伝わってきました。わけても、情報化社会の中で生きる私たちにとって「心」がどれだけ大切かということが実感できました。時代はどんどん変わり、街にITがあふれても人として生きるための美しい心の持ち方は変わらないうたいものです。

本年も当財団の助成事業が、移りゆく時代の中で強く生きる心を育てるために、少しでもお役に立てるよう願っています。(野間)

## 平成十三年度文化関係助成対象者による 文化発表会

福武文化振興財団は、平成十四年九月二十日(金)に「文化発表会」を行いました。小寺聰副理事長が、「倫理観の欠如したできごとの多い今の日本に、新しい創造を生み出す契機になるような、地域に根ざした文化活動に取り組んでおられる皆さんにこれからも頑張っていたほしい」とあいさつをした後、七団体がステージ発表をしました。



岡山トロンボーン協会による演奏

- ◆ステージ発表◆
  - 藤酔会：日本舞踊  
おかやま山陽高校  
マイスタースクール「能」  
(ビデオ上映)
  - 歌舞伎研究会 松神会  
(ビデオ上映)
  - ASSOCIATION紫  
紫の物語(朗読)
  - さわらび会：墨彩画  
赤松 寿郎：鑑絵とは  
岡山トロンボーン協会：  
トロンボーンアンサンブルの演奏
- ◆展示発表◆
  - 一宮八幡神社  
秋山 基夫  
石井十次の心を伝える文化の会  
ユートピアクラブ
  - 岡山県詩人協会  
邑久ライブフォーラム  
かばくくらぶ  
総社市民劇団「温羅」  
イースト岡山女性ネットワーク  
エコウェーブおかやま  
エネルギーの未来を考える会

### 大日観音堂改築と大日如来座像修復について

(近隣の者が協力して)  
英田郡作東町 井口 祥子

私の家の近くにある大日観音堂(大日堂ともいう)には、大日如来座像と十一面観音像がまつられています。中でも大日如来座像は、みんなから「大日様」と呼ばれて、親しまれています。

この仏像は平安時代のころの作で、美作地方では最古のものと言われ、県の重要文化財にも指定されています。このすばらしい仏像がどつして片田舎の小さなお堂にあるの、不思議に思われますが、きつと近在の者が力を合わせて大事にしてきたのでしよう。

この二体の仏像は、もとはこれより奥の角南寺合にある善福寺というお寺に安置されていたということです。今はもうそのお寺は存在しませんが、その屋敷跡に行けば瓦や茶碗のかけらが見つかります。善福寺は、広い敷地があり、作東唯一の霊場でしたが、



修復された大日如来座像

来座像を守ろうと改築を決意したのが昨年のごときでした。みんな竹を三、四十本も切ったり、厨子を修繕したりして、力を合わせて共同作業をすることにも、角南部落の各家を訪れ、浄財のお願いにまわったところ、どの家からもご理解をいただくことができました。

また、県の文化課の方から、大日如来座像の修復も併せてしたらどうかとの提言をいただき、福武文化振興財団様が大きな援助と支援をしてくださることになり、少ない家数でどうしたものかと困り果てていたころなので、みんなの喜びとなり力となりました。

およそ一年がかりで大日観音堂の改築、大日如来座像の修復ができて、どちらも立派なものとなり、感謝の気持ちでいっぱいでした。平成十四年十月八日、落慶法要もすませ、浄財をいただいた角南部落の方々記念の日本手ぬぐいを配りました。

今後この大日如来座像をみんなで大切に守り、後世に伝えたいと思っています。

### 第十五回 教育研究発表会

平成十四年十一月三十日、岡山県生涯学習センター大研修室で福武教育振興財団主催第十五回教育研究発表会が行われ、前年度に教育研究助成を受けた四十二件の中から、七名の発表者が一年間の研究成果を報告しました。

当財団の宮地暢夫副理事長から、「今、私どもが特に関心を持っているのは、学校現場の皆様がどのように現状を受け止め、どのような展望のもとに教育を行い、研究を深めているのかということであり、またそれを大事にしていかなければならないと思っております。」とあいさつがあり、七名の先生方が次々に発表しました。

どの研究も実践的で、魅力のある内容が参加者の心を引きつけ、あっという間の三時

- プログラム
- 岡山市立福谷幼稚園  
教諭 河原 智美  
～豊かな心を育む環境づくりと援助の工夫～
  - 御津町立五城小学校  
教諭 石井 聡  
～学び方考え方を身に付ける総合的な学習の時間のカリキュラム作りに関する研究～
  - 岡山市立富山小学校  
教諭 松田 力富  
～生きる力を育む新指導体制の構築～
  - 井原市立木之子中学校  
教諭 塩飽 修身  
～生き生きと自己表現をする生徒の育成～
  - 倉敷市立南中学校  
教諭 川上 公一  
～中学校数学科における「少人数」授業のあり方～
  - 倉敷市立黒崎中学校  
教諭 稲田 修一  
～地域教材を生かした「調剤授業の試み」～
  - 岡山県立岡山大安寺高等学校  
教諭 河本 知徳  
～岡山県に現存する貞観問題による教材作成～

間でした。発表終了後、本研究助成の審査委員長である岡山大学教育学部教授高旗正人先生から次のようなお話がありました。「実践研究の方法としては、まず子どもの実態を知ることが必要で、子どもの変容や活動、学力などいろいろな観点から、子どもがどのようなふうに変わってきたかを明確にしていくことが大切である。また、意欲のわかない子ども、興味を示さない子どもに対し、どう関心を持たせるかという方法の開発研究もこれからの一つの視点においていただきたい。」

今回は五十名余りの参加者でしたが、発表者と参加者ともに充実した時間を過ごせたように思われました。なお、研究の詳細については各学校にお配りしている「教育研究叢書」をご覧ください。(野間)



### 「確かな学力」向上のための工夫

岡山県教育評価研究会 代表 松原 泰通

学習指導要領を最低基準ととらえ、「確かな学力」を身に付けさせることをねらいの一つとして、「目的に準拠した評価」が全面的に導入されました。これに伴い、学校では、各教科の評価規準の設定や評価方法の工夫が進められています。

私たちの研究では、「確かな学力」を保証するために、児童の学習状況を見極め、目標を達成できない児童一人ひとりに対する指導の手だてを講ずることが必要であると考え、目標を達成させるための授業の工夫に重点を置きました。特に、複数の



指導法の共有について研修

教師が一人の児童にかかわる場合には、一人の教師が工夫した指導の手だてを、それらのすべての教師が共有して指導にあたるのが大切です。

私たちはこのことを実現するために、校内ネットワークを活用して、指導の改善に役立てる研究を進めており、具体的には、「スクールインストラパック」を活用し、教科別にフレームコンテンツ(ひな型に入力するだけでホームページが作れる)を作ったデータベースを試みています。例えば、授業で効果があった、ちょっとした板書の工夫や自作した教材などをデジタルカメラで撮影し、短文の説明を付けてフレームコンテンツに掲載するという方法です。

一人ひとりの児童に対する有効な指導の手だてを共有し、日ごろの授業に生かせることができれば、すべての児童に「確かな学力」を保障することができると確信して、研究実践に取り組んでいます。

三・四年前、田中裕子さんではなく、もう一つ前の作品である高峰秀子さん主演の映画「二十四の瞳」を観て以来、一度、小豆島に行きたいと思いつながら果たせないうちに、ところが、昨年の秋、偶然バスツアーがあることを知り、早速家族で「岬の分教場」を訪ねた。

バスの中で、ガイドさんが壺井栄の「二十四の瞳」の「十年をひとむかしでいうならば、この物語の発端はいまからふたむかし半もまえのことになる」というくだりで始まる部分を数分間にわたり、語り聞かせてくださり、非常に感銘を受けた。また、教育に行き詰まったり悩んだりしている現職の先生がよく訪ねてくるという話も聞いた。田中裕子さん主演の映画ロケで使われた分教場のセットがそのまま保存されていたり、大石先生が十二人の子どもたちと一緒に

随想

## 教育の原点

岡山県中学校長会  
会長 守屋 宣男

が、大石先生を訪ねて一本松を目指し、約一里(八キロ)の道を腹を減らしながら、わらじがすり切れ、はだしになりながら、先生に会いたければかりに歩き続けるくだりでは、涙がとめどなく頬をつたって、家族に笑われないうちに、幼い子どもたちが、怪我で学校を休んでいる担

に遊んでいる姿を「せんせあそば」という題で銅像にしてあったりして、昭和三年当時にタイムスリップしたひとときを過ごすことができました。

家に帰ってからこれらの感動が忘れられず、次の日学校の図書館で本を借りてきて読んだ。特に、一年生の子どもたちが

任の先生に会いに行ったのだろうか。音楽の授業が男先生では、満足できなかったからだろうか。子どもたちをそのような行動に駆り立てたのは、大石先生の温かい人柄、つまり、豊かな人間性であったように思う。